

1 理事長ご挨拶

公益財団法人深井奨学財団
理事長 住田 笛雄

深井奨学財団（戸山高校奨学基金）からお礼とご報告

城北会は戸山高創立100周年記念事業の一環として深井奨学事業を再活性化するため1985年から寄附集めを開始し、100周年記念時には5000万円強の寄附を頂戴して新生深井奨学事業を始める事が出来ました。以来、城北会員皆様のご支援のおかげで2018年3月末には、指定正味財産残高**1億9千3百万円**の規模まで本財団を成長させていただきました。ありがとうございました。

2017年度は、深井奨学財団に、総件数271件で個人会員、毎年のように多額のご寄附を頂戴する会員諸兄、また、城北会からは多大のご寄附を頂戴し、**総額8,621,000円**（予算：4,000,000円）のご寄附を頂きました。厚く御礼申し上げます。

2014年度から新たにはじめた「東京都立戸山高等学校の総合的な教育活動に対する助成」事業に対して、2017年度は、59名の個人会員から合計45万4千円の寄附を頂戴しましたこと御礼申し上げます。なお、深井奨学財団への寄附者のご氏名のみは城北会誌第66号に掲載させていただき謝意を表します。

財団の2017年度の奨学事業実績は、深井奨学給費生32名に366万円、大学入学お祝い金は本年は現役生4名、浪人5名（1人24万円）に216万円。奨学金合計632円を給付することが出来ました。

また、戸山教育助成事業実績は、「豪州サイエンス研修」、「米国サイエンス研修」に参加するSSHの生徒10名に対し、一人当たり5万円計50万円の給付を実施致しました。

2018年度の奨学事業計画は、深井奨学生36名に月々1万円の給付と大学入学祝い金一人当たり24万円を14名に給付する公益目的奨学事業に930万円の予算を組みました。

また、戸山高校が掲げる「国際社会に貢献するトップリーダーの育成」のミッションに即して、今後とも海外研修奨学助成の重要性が増すことは必須と考え、戸山生に限っての海外研修奨学助成を主体に、戸山教育助成予算66万円を組みました。総事業予算は、公益目的奨学事業費、戸山教育助成事業費、管理費等を含め合計1,039万円余の予算を計上致しました。

今年の2018年度事業計画書並びに収支予算書を組むに当たり、会員皆様からの奨学基金寄附金収入に頼らざるを得ず、奨学寄附金収入予算は500万円を計上しております。また、税制の優遇措置が受けられない「用途指定（戸山教育助成）寄附金」収入予算は、62万円余を計上致しております。

以上の点をよろしくご賢察のうえ、本年度も城北会の会員の皆様には一層のご支援とご協力をなにとぞお願いする次第です。

寄附金収入のうち、2007年度から始めました城北会年会費と一緒に振り込む「口座自動振替ご寄附」（継続賛助会員）は、初年度の2007年度25件からはじまり、2017年度は81件、683,000円で、この数年ほぼ横ばいで伸びが見られておりません。本年度も、城北会年会費2,000円、奨学基金1,000円と戸山教育助成へ1,000円と是非積み上げてお振込頂きたく、継続賛助会員の皆様にはご協力をお願いいたします。

以上